



育成センターだより

鹿児島市山下町6-1 TEL 227-1972

【1月の重点指導事項及び着眼点】

- 1 家庭・地域の教育力向上
家庭のどんらん、地域の伝統行事等への積極的参加の推進
- 2 有害環境の浄化
犯罪や有害環境から守るための関係機関等と連携した啓発及び巡視・声かけ

夢をはぐくむ



明けましておめでとうございます。

旧年中は、当センターの活動に対しましてご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。本年も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

さて、新年を迎え、「新年の抱負」を語り合ったご家庭も多いのではないかと思います。「抱負」とは、心の中にもっている決意や行動計画のことを指す言葉で、目標と共に目標を達成するまでのプロセスも含まれるのだそうです。つまり、「〇〇になりたい。〇〇をしたい」だけでなく、「〇〇になれるよう、□□する」が「抱負」なのです。

似たような表現に、「夢を抱く」や「夢をはぐくむ」があります。英語では、それぞれ「to have a dream (夢をもつ)」、「to develop your dream and take action realize it (あなたの夢を発展させ、それを実現するために行動を起こす)」と表現されることがあり、「夢をはぐくむ」には、「抱負」と同様に目標を達成のための行動計画も含まれることとなります。

ウォルト・ディズニー氏は、「夢をかなえる秘訣は四つの『C』に集約される。それは、『Curiosity

好奇心』『Confidence 自信』『courage 勇気』そして『Constancy 継続』である」と述べています。夢をはぐくみ、夢をかなえるためには、ポジティブな心と継続した努力が必要であると言えます。

ところが、日本財団が2019年に発表した「『18歳意識調査』-社会や国に対する意識調査-」の結果では、「将来の夢をもっている」という項目で、他の調査国8か国が軒並み9割を超えているのに対し、日本は60.1%と大きな差で最下位でした。「自分は責任ある社会の一員だと思う(44.8%)」「自分で国や社会を変えられると思う(18.3%)」など、質問6項目の全てで最下位でした。

将来に希望がもてないため、「夢を抱く」ことさえできず、「夢をはぐくむ」こともできていない若者が多いのかもしれない。「夢みたくないこと言っていないで…」などの大人の言葉で、好奇心や自信をもてずにいる可能性も考えられます。

夢は、生活に生き生きとした活気を与えてくれます。これは大人も同じです。日頃から子どもに夢を語らせ、それを否定することなく、夢に向かって行動している子どもを全力で支援したいものです。その過程で、子どもは徐々に現実社会との関係の中で自分を見つめ、自己実現を図っていくのではないかと考えます。

かいこう

邂逅～ある少年との思い出～

子どもは、誰もが純粋で優しい心をもっています。その優しい心を大人になってもずっともち続けてほしいと願います。

「十数年前に出会ったあの少年は、元気にしているだろうか」

時折、彼のことに思いを馳せます。

それは1月の寒い日、下校指導後、校区内を巡視していたときのことです。路上に横たわっている高齢の女性を見つけました。このままでは後続車にはねられる危険があり、急いでその女性を救助する必要がありました。

そのときです。走り寄り人影がありました。「先生、手伝います」その声の主は、私が勤務している中学校の生徒でした。

意識を失い、頭部を負傷していた女性を歩道に運び、止血等の応急処置をして救急車の到着を待ちました。彼はその間、「おばあちゃん大丈夫だよ、大丈夫だよ」と優しく声を掛け続けてくれました。後日、命に別状はなく快方に向かっていることを聞き、少年に伝えました。

学校では教師の指導を受けることの多い生徒で、時に教師に反抗する一面もあった少年は、迷うことなく人を助ける心優しき温かな人でした。

卒業以来、少年とは会っていませんが、私は信じています。今でも心優しき温かな人でたくましく人生を歩んでいると…。

1回でも「ダメ。ゼッタイ。」 (薬物乱用防止)

薬物乱用とは、覚醒剤や大麻などの違法薬物を使用・所持したり、シンナーなどの化学物質を不正な目的・方法で使用したりすることです。また、医薬品の本来の治療目的からはずれた用法、用量での使用も薬物乱用になり、一度だけでも乱用です。

近年、薬物乱用が低年齢化しています。その背景には、インターネット等を通じて薬物が簡単に手に入るようになってきていること、「一度くらいなら害はない」「個人の自由だ」という薬物乱用の危険性に対する誤解や罪悪感の希薄化などがあるとされています。

薬物乱用の怖さは、薬物が脳に直接ダメージを与え、元に戻ることはないという点です。依存症を引き起こし、精神障害を発症させ、その症状と一生向き合っていかなければならないのです。

周りの環境や友人から影響を受けやすい子どもたちを薬物乱用から守るには、家庭での親子のコミュニケーションが何よりも大切です。「ダメ。ゼッタイ。」を合い言葉に、薬物乱用の怖さを教え、子どもが危険な誘惑に乗らないよう注意していきましょう。

